

安全データシート

改訂日: 2015年12月18日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	リグロイン
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	IB0008

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体: 区分2
健康に対する有害性	急性毒性(吸入: 蒸気): 区分4 皮膚腐食性・刺激性: 区分2 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分2 特定標的臓器・全身毒性: 区分3(麻醉作用/気道刺激性) (単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性: 区分1(神経系) (反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性: 区分1

* 記載のないものは「分類対象外」, 「分類できない」または「区分外」。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

引火性の高い液体及び蒸気
吸入すると有害
皮膚刺激
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復ばく露による神経系の障害
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源 から遠ざけること。一禁
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。静電気放
電に対する予防措置を講ずること。
火花を発生させない工具を使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
適切な保護眼鏡/保護面/保護手袋を着用すること。
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
【救急処置】
火災の場合には、適切な消火方法をとること。
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息さ
せること。
吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズ
を着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを
受けること。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること
 該当情報なし。
 該当情報なし。

GHS分類区分に該当しない他の危険有害性
 重要な兆候及び想定される非常事態の概要

3. 組成、成分情報

化学品・混合物の区別
 化学品
 化学名又は一般名
 リグロイン
 別名
 ー
 化学式
 C_nH_{2n+2}
 CAS No.
 8032-32-4
 官報公示整理番号(化審法/安衛法)
 (9)-2578
 濃度又は濃度範囲
 炭化水素(主成分が炭素数7~8の炭化水素混合物)100%
 危険有害成分
 リグロイン
 GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物
 該当情報なし。

化学品
 リグロイン
 ー
 C_nH_{2n+2}
 8032-32-4
 (9)-2578
 炭化水素(主成分が炭素数7~8の炭化水素混合物)100%
 リグロイン
 該当情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合
 皮膚に付着した場合
 眼に入った場合
 飲み込んだ場合
 予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状
 応急処置をするものの保護
 医師に対する特別な注意事項

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
 皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
 多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 直ちに医師に連絡すること。
 吐かせないこと。
 該当情報なし。
 該当情報なし。
 該当情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤
 使ってはならない消火剤
 特有の危険有害性

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
 棒状放水、水噴霧
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 極めて燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。
 消火後再び発火するおそれがある。
 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 容器が熱に晒されているときは、移動させない。
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

特有の消火方法

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 環境に対する注意事項

全ての着火源を取り除く。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 関係者以外の立入りを禁止する。
 密閉された場所に立入る前に換気する。
 環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
危険でなければ漏れを止める。
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(局所排気、全体排気)

安全取扱い注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
消防法の規制に従う。
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
皮膚と接触しないこと。
皮膚との接触を避けること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
眼に入れないこと。
飲み込まないこと。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避

衛生対策

保管

安全な保管条件

容器を密閉して冷乾所にて保存すること。
消防法の規制に従う。
施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
ガラス

安全な容器包装材料

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

許容濃度(出典)

設備対策

未設定
未設定 (日本産業学会)
TWA (300ppm) Changes are proposed (ACGIH:2007)
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
ばく露を防止するため、装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気装置を設置すること。
消防法の規制に従う。

保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な眼の保護具を着用すること。
適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色等)

臭い

臭いの閾値

pH

融点・凝固点

沸点、初留点及び沸騰範囲

引火点

蒸発速度

燃焼性(固体、気体)

燃焼又は爆発範囲の上限・下限

蒸気圧

蒸気密度

比重(相対密度)

溶解度

無色の透明な揮発性液体
特異な臭気
該当情報なし。
該当情報なし。
-73℃以下(文献値)
80~110℃(JIS規格)
-10℃(タグ密閉式:試験値)
該当情報なし。
該当情報なし。
下限1.1vol% 上限5.9vol%(文献値)
40mmHg (20℃)(文献値)
2.50(空気=1)(文献値)
0.68~0.75g/ml(20℃)(JIS規格)
エタノール、ジエチルエーテルに極めて溶けやすく、水にほとんど溶けない。

n-オクタノール/水分配係数
 自然発火温度
 分解温度
 粘度(粘性率)

該当情報なし。
 該当情報なし。
 該当情報なし。
 該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性
 危険有害反応可能性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
 引火性液体で熱、炎、スパークまたは酸化剤により火災の危険性が極めて高い。

避けるべき条件
 混触危険物質
 危険有害な分解生成物

加熱、高温、火花
 酸化剤
 火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性
 [経口]ラットにおける2つのLD50値 >25.0ml/Kg, >15875mg/kgに基づき、区分外とした。
 [経皮]ウサギにおける2つのLD50値(4h) >5.0ml/Kg, >3175mg/kgに基づき、区分外とした。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性
 [吸入]ラットにおけるLC50値(4h) 14000-16000 ppmに基づき、区分4
 ウサギの皮膚に半閉塞適用24時間後に軽度の刺激性(slight irritation)が認められた[DFGOT vol.14 (2000)]。ヒトでは閉塞適用1~5時間後に紅斑、5時間後に水疱形成も見られ、1.5 mLを前腕部皮膚に適用後ヒリヒリ感と灼熱感および一過性の紅斑を認めた[DFGOT vol.14 (2000)]。さらに、EU分類でXi, R38に分類されている(EU-Annex I (Access on July 2005))ことを考慮に入れ区分2とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性
 ウサギを用いた2つの試験(いずれもEHC 20, 1982)において、最小限の刺激性(minimally irritating)がみられる。また、接触は眼と皮膚を刺激する(HSFS, 2007)との記述があることから、区分2とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性
 十分な情報が得られない為分類できない。

生殖細胞変異原性
 十分な情報が得られない為分類できない。

発がん性
 IARCにおいて、「石油系溶剤全体の評価として」はグループ3(ヒトに対する発がん性について分類できない)に分類されている為、区分外と十分な情報が得られない為分類できない。

生殖毒性
 ヒトでは、一般的な中毒症状として、末梢神経障害と中枢神経系抑制、皮膚と呼吸器への刺激(Patty 5th, 2001)との記述がある。過剰ばく露または吸入ばく露時の症状としても中枢神経系抑制と気道の刺激性(HSDB, 2005)が記載されており、急性神経毒性作用として麻酔作用、陶酔感、めまい、手足のしびれ(HSDB, 2005)などが記載されている。また、誤って麻酔剤として使用した場合、可逆的な脳水腫(reversible cerebral edema)の原因となる(Patty 5th, 2001)との記述がある。動物試験においても、動物種は不明であるが、吸入試験により麻酔作用と気道刺激性がみられる(EHC 20, 1982)。以上の結果より、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(単回暴露)
 工場での労働者のばく露において、空气中濃度2.25~5.625 mg/Lで多発性神経障害がみられ、労働者らが不眠症、興奮性、明確ではない中枢神経系症状を訴えた(EHC 20, 1982)との記述がある。また、作業環境の不十分な換気による長期吸入ばく露で、労働者に多発性神経障害がみられ、食欲不振、筋力の低下、運動機能の障害、知覚障害などの症状(Patty 5th, 2001)が記載されている。さらに慢性神経毒性作用として運動性多発性神経障害(motor polyneuropathy)があげられている(HSDB, 2005)。ラットを用いた24週間吸入ばく露試験においては、正確なばく露濃度は不明だが、末梢神経機能のわずかな低下がみられる(IARC vol.47, 1989)。以上の結果より、区分1(神経系)とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)
 工場での労働者のばく露において、空气中濃度2.25~5.625 mg/Lで多発性神経障害がみられ、労働者らが不眠症、興奮性、明確ではない中枢神経系症状を訴えた(EHC 20, 1982)との記述がある。また、作業環境の不十分な換気による長期吸入ばく露で、労働者に多発性神経障害がみられ、食欲不振、筋力の低下、運動機能の障害、知覚障害などの症状(Patty 5th, 2001)が記載されている。さらに慢性神経毒性作用として運動性多発性神経障害(motor polyneuropathy)があげられている(HSDB, 2005)。ラットを用いた24週間吸入ばく露試験においては、正確なばく露濃度は不明だが、末梢神経機能のわずかな低下がみられる(IARC vol.47, 1989)。以上の結果より、区分1(神経系)とした。

吸引性呼吸器有害性
 ヒトにおいて、家具の艶出し剤またはライターオイルに含まれる可能性のある本物質を子供が摂取すると、化学肺炎と気腫(pneumatocoles)の原因となる(Patty 5th, 2001)、および、液体の誤嚥は化学肺炎を引き起こす可能性がある(HSDB, 2005)との記述に加え、EUリスク警句がR65(EU-Annex I, Sep. 2008)であることから、区分1とした。

12. 環境影響情報

生態毒性
 残留性・分解性
 生体蓄積性
 土壌中の移動性
 オゾン層への有害性

該当情報なし。
 該当情報なし。
 該当情報なし。
 該当情報なし。
 該当情報なし。

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

1268

品名(国連輸送名)

石油蒸留物n.o.s又は石油製品n.o.s

国連分類

クラス3

容器等級

II

海洋汚染物質

非該当

国内規制

[陸上輸送]消防法に従う。

[海上輸送]船舶安全法に従う。

[航空輸送]航空法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。

応急措置指針番号

128

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

該当しない。

毒物及び劇物取締法

該当しない。

労働安全衛生法

危険物(引火性の物)

施行令第18条の2[名称等を通知すべき有害物(SDS対象物質)](石油ナフサ)

有機溶剤中毒予防規則 第3種有機溶剤(石油ナフサ)

消防法

第4類第1石油類非水溶性液体

船舶安全法

引火性液体類

航空法

引火性液体

港則法

引火性液体類

16. その他の情報

参考文献

16615の化学商品(化学工業日報社)

職場の安全サイト(厚労省HP)

CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。